

Solving your problem

OVERBLOOD

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

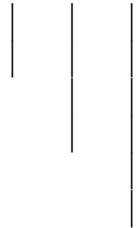
Spiritスピンオフ第13弾。

S  
o  
l  
v  
i  
n  
g  
  
y  
o  
u  
r  
  
p  
r  
o  
b  
l  
e  
m

目 次

|  
1

Solving your problem



—PM6:17 公園 ベンチ—

ユラ「ふう……………」

リゼ父「……………」ゴクゴク

ユラ「寒いね〜もう冬かな〜」

リゼ父「そうだな……………」

ユラ「で、何の話しだっけ〜?」

リゼ父「」ガクツ

リゼ父「聞いてなかったのか、こっちは真面目に相談してるのに」

ユラ「冗談だよ〜リゼやここあちゃん、みんなとの付き合い方でしよ〜?」

リゼ父「……………ああ。どのくらいの距離で接するべきなんだろうか」

ユラ「ん〜……………そうだね〜」ピヨン

ユラ「これまで通りでいいと思うよ〜?」

リゼ父「……………! 本当か?」

ユラ「リゼのお父さんは上手くやってるでしょ〜。リゼにもここあちゃんにも好かれてるしさ〜」

リゼ父「……………そうなんだろうか」

ユラ「自信もって良いと思うなくわたしが保証してあげるよ」

リゼ父「……………」

ユラ「腑に落ちない? ナイーブなどころはリゼにそっくりだね〜」

ユラ「わたしがリゼのお父さんのこと気に入ってるんだしさ〜心配ないよ〜」

ユラ「チノちゃんたちはわたしなんかよりも、ずっと良い子ばかりでしょ〜?」

リゼ父「ふっ……………確かにな」

ユラ「あれえ?そこは否定してほしかったな〜」

リゼ父「お前は優しいが良い子とは言えないだろう」

ユラ「ふふ〜リゼのお父さんはそうでなくちゃね〜」

ユラ「話変わるけど、ここあちゃんに誘われたからさあ、明日のお

昼頃遊びに行くからよろしく」

リゼ父「晩飯はどうする？」

ユラ「お呼ばれしてもいいの？」

リゼ父「当たり前だ」

ユラ「それじゃあお言葉に甘えよつかなく」

ユラ「じゃあね、リゼのお父さん〜コーヒー〜ごちそうさま〜」フリ  
フリ

リゼ父「すまないな……助かった」

ユラ「いいのさ〜またいつでも相談してよ〜」

—————

—————

—————

—————

——翌日 AM 10:07 甘兎庵——

千夜「どうですか？」

ユラ「ん〜……完璧かな〜」

千夜「ほんとうですか、良かった……!」

ユラ「餡子の甘さを抑えたんだね〜逆転の発想〜」

千夜「はい、練乳をかけたほうが絶対においしいので」

ユラ「甘さが相殺されてないよ〜大人のデザートって感じ〜」

千夜「試食なんてお願いしてすみません。おかげさまで助かりました」

ユラ「甘いもの好きだからいいよ〜千夜ちゃんの和菓子に対する情熱も見えてみたかったしさ〜」

千夜「あとは和菓子の名前です、ユラ先輩も一緒に考えましょう」キラキラ

ユラ「思ったよりもアイデア奇抜だよね〜ギャップ萌えかも〜」

千夜「お客さんが誰もいない今がチャンスです」

ユラ「それってチャンスなのかな〜?」

——ガラッ

使用人「失礼します」

千夜「あら使用人さん、良いところへ」

ユラ「やつほく」フリフリ

使用人「!」

ユラ「ユラちゃんがいてガツカリく?ごめんねく」

使用人「いえ、決してそういうわけでは……」

ユラ「大丈夫さくユラちゃん空気読める子だからく」

ユラ「千夜ちゃん、わたしそろそろ帰るねくお勘定ここに置いてくからく」

千夜「いえ、わたしが頼んだんですから……!」

ユラ「気にしないでくこんなものタダで食べたら虫歯になるよく」

使用人「あの……!」

ユラ「あとは頑張ってねく使用人さんく」ムフー

使用人「ま、待ってください!」

ユラ「?」

使用人「帰らないでくださいお願いします」コソツ

ユラ「どうしてく?ユラちゃんお邪魔虫でしょく?」ヒソツ



千夜「？」

使用人「店内で二人きりはダメなんです、他にお客さんがいないと」

ユラ「サングラスかけてるんだし、照れ症もバレないよ？」

使用人「会話を上手く続ける自信が無いんです、頼むから一緒にいてくださいえ……！」

ユラ「見かけによらずヘタレだね」

使用人「うっ……」グサツ

千夜「ユラ先輩？使用人さん？」

ユラ「千夜ちゃんごめんね、やっぱりわたしも一緒に考えてもいい？3人寄らばなんとやらって言うしさ」

千夜「はい、もちろんです。使用人さんもどうぞこちらに」

使用人「ありがとうございます」ヒソツ

ユラ「千夜ちゃん限定の症状？」コソツ

使用人「違います、相手がこの子に限らず二人きりが苦手なんです……」

ユラ「難儀だね」

千夜「？」

ユラ「黒耀に降りしきる白幻とかどうかなく?」

千夜「良いセンスです、さすがはユラ先輩ですね」

使用人「……………／＼」

ユラ「さつきから無言だけど使用人さんも考えてよく?」

使用人（あの…………席を代えてください）グイッ

ユラ（ダメだよ）

使用人（真ん中は無理です、ならせめてあっちの席に!）

ユラ（両手に花でいいでしょうもう少しで終わるからさ）

使用人（くっ…………やはり無償ではなかった…………）ガクッ

ユラ（ハメられたって顔だね〜ふふ〜）

千夜「使用人さんはこれとこれ、どっちがいいと思いますか?」スツ

使用人「!」

ユラ「わたしはこっち推しく使用人さんは?」スツ

使用人「ち、近いです…………!」

使用人（いい匂いが……／＼）

ユラ「どうしたの〜？」ムフー↑わざと

千夜「エアコン効きすぎですか？」キョトン↑無自覚

---

——AM10:41 商店街——

ユラ（あと2時間かあ、どこで時間潰ししようかな〜）

ユラ（もうすぐ冬だからブティックで服でも——……んっ?）

シャロ「大根カットが73円で、ワカメがグラム98円だから……」  
ブツブツ

シャロ「あとは豆腐……見切り品があればそれを——」

——フツ!

シャロ「あだっ」コッソソ

シャロ「この技は……!」

ユラ「お買い物〜?」

シャロ「吹き矢部長! どうしてここに……!」

ユラ「そろそろ名前で呼んでよ〜」

ユラ「ユラ先輩いまとつても暇なんだから寂しいから一緒に買い物させて〜」

シャロ「うええ!? で、でも……!」

ユラ「荷物くらいなら持つからさ〜」

シャロ（庶民派なのがバレちゃう……!）

ユラ「こういうところで買い物か〜ふーん」

シャロ「あ……あ……」アセアセ

ユラ「いいね〜好きだよ〜」

シャロ「ふえ?」

ユラ「リゼもさ〜お嬢様なのに自分でバイトしたりしてるでしょ〜」

ユラ「ああいうところいいよね〜」

シャロ「は、はい……」

ユラ「いこつかくまずは大根のカット」

シャロ「独り言聞いてたんですか!？」

---

公園

---

ユラ「本当にここでいいの〜?」

シャロ「はい、荷物ありがとうございます」

ユラ「どうせならシャロちゃんのおうちまで」

シャロ「いえ!本当に結構ですから!」

シャロ「では失礼します」ペコリ

タタタ

ユラ「いつちやった……」

ユラ「うーん……また独りぼっちかあ」

ヒョコ

ユラ「んっ……うぢぎゃ〜」

ピョンピョン

ユラ「可愛いね〜おいで〜」

ピョン

ユラ「よしよし、もしかして独りぼっち？」ナデナデ

ユラ「わたしと一緒にかあ〜ぎゅっ〜」

ビクッ!

ユラ「あっ」

ピョンピョン

ユラ(すごい勢いで逃げていつちやった……どうして?)

ユラ(ん……?)

チノ「あうう……」ガーン

ユラ「あれ〜チノちゃん？」

チノ「あ、ユラさん、こんにちは……」ペコリ

ユラ「チノちゃんもウサギを愛でてたの〜？」

チノ「いえ、実は……」

ユラ「？」

ユラ「動物に嫌われちゃう体質か〜」

チノ「はい、ティツピーは平気なのですが」

ユラ（だからあのウサギ逃げたのかな？重症だね〜）

チノ「あそこまであからさまに避けられるとさすがにショックです……」ズーン

ユラ「まあ気を取り直して〜お昼ごはん食べた〜？」

チノ「いえ、これから家に帰ってから済まそうかと」

ユラ「この後の予定は〜？」

チノ「予定ですか、特には……」

ユラ「そつかくそれじゃあここで5分ほど待ってて〜」

チノ「？」

ユラ「すぐに戻ってくるからさ〜」

チノ「あつ、ユラさん……」

---

ユラ「んゝ寒い中で食べるハンバーガーもなかなかだね」

チノ「すいません、ごちそうになってしまつて……」

ユラ「いいのさゝユラちゃん一人で2セットも食べられないからね  
ゝ」

チノ「ユラさんはいつもこういうものを？」

ユラ「そんなことないよゝここあちゃんと一緒に食べて以来かな  
ゝ」

チノ「えっ？」

ユラ「この前ここでここあちゃんと一緒にハンバーガーを食べたんだよゝ」

ユラ「チノちゃんともやってみたくなっただけ、ごめんねゝ」

チノ「そうでしたか……いえ、ごちそうさまです」

ユラ「チノちゃんはどこかお出かけしてたの？買い物ゝ？」



チノ「図書館に行ってみました。ですが探していた本が見つからなくて……」

ユラ「町の中央にある図書館？」

チノ「はい。きつとどこかにあるはずなのですが、あまりに本が多すぎて……」

ユラ「タイトルは？」

チノ「それが、小さい頃に読んだ本なので全く……」

チノ「黒いウサギが描かれたカバーが記憶に残っているだけで……内容は覚えているのですが」

ユラ「表紙の絵だけが手がかりだね〜そこから中を調べて絞っていきしかないか〜」

チノ「暇をみつけては通い詰めているんですが、さすがに無理ですね……」

ユラ「……そうだねえ」

チノ「……」

ユラ「でも、二人で探せば何とかなるかも〜」

チノ「え？」

ユラ「チノちゃん、今からもう一度探しに行かない？」

ユラ「わたしも手伝うからさ〜」

チノ「しかし、あの量では……」

ユラ「その無理に一人で何度も挑むくらい、諦めきれない理由があるんでしょ〜?」

チノ「!」

ユラ「ユラ先輩はそういう子を放っておけないんだよ〜」

チノ「……………」

チノ「……………ここあさんに、読ませてあげたくて」

ユラ「なるほどね〜そういうことか〜」

ユラ「だったらなおさら力になってあげたいな〜」

チノ「ユラさん……」

ユラ「今度は二人で探してみよ〜」

ユラ「どこかには必ずあるんだからさ〜」

チノ「……………」グツ

チノ「はい———お願いします」

?

ユラ「久しぶりに来たけど、やっぱり大きいね」

チノ「絵本のコーナーだけでも何万冊あるでしょうか……」

ユラ「手前と奥側からしらみつぶしに探していこっか」

ユラ「本の内容はチノちゃんにしか分からないから、わたしはウサギが描かれた本を集めてくるよ」

チノ「今朝はここまで調べたから、次はここです」ガサゴソ

ユラ（ここあちゃんとの約束まであと1時間もないか、厳しいね）

ユラ（どうにか見つけてあげたいけど）ガサゴソ

チノ「これも違います……」

ユラ「ここまででは全て終了、次は隣の本棚」

チノ「んっ……！」プルプル

ユラ「チノちゃん無理しないで、高いところはわたしが後で調べから」

チノ（似てるけど、違う……）

ユラ「ウサギの本発見、キープ」

---

チノ「……違います」フルフル

ユラ「この本棚も全滅だね」

ユラ（そろそろタイムリミットかな……）

チノ「……」シユン

ユラ（確かずっと通い詰めてるんだっけ……）

ユラ「……………」

ユラ（やっぱりこのままにしておけないよね）

ユラ「ちよつと待ってて〜」

ユラ「……………」ピッ

——Prrrrrrrrrrrrrrrrrrrr

ユラ「あつ、リゼ〜?」

ユラ「ごめん、少し急用ができてさ〜遅れるけどいい?」

ユラ「——ありがとう、ここあちゃんに謝っておいて〜」

ユラ「うん、用事が終わったらすぐに行くから〜」

ユラ「——優しいね〜リゼは。愛してるよ〜」

ユラ「ふふっ〜また後でね〜」

ユラ「さて、お次は〜」ピッ

——Prrrrrrrrrrrrrrrrrrrr

ユラ「あつ、もしもし?」

ユラ「リゼのお父さん? わたしだよ。昨日ぶり」

ユラ「いま時間ある?」

ユラ「実は図書館でね、どうしても見つからない本があるんだ」

ユラ「——それが、タイトルすらも分からなくてさ」

ユラ「——ううん、困ってるのはチノちゃん」

ユラ「リゼのお父さんはジェントルマンだもん、助けてくれるよね  
〜?」

ユラ「——いいよ。これで昨日の分の貸しは無しにしよ」

ユラ「良い返事待ってるから」ピッ

ユラ(さて……やれることはやったし、あとはがんばるしかないね)

ユラ「お待たせ……!」

チノ「ユラさん、おかえりなさい……」ガサゴソ

ユラ「チノちゃん……ふふっ。いいガッツだね」

チノ「ここあさんのためにも、簡単には諦められません」

ユラ「ユラ先輩も負けてられないなく気合い入れてもう一度探そっか」

チノ「クスツ……はい」

チノ「ユラさんもここあさんのために、ですか？」

ユラ「んゝそれもあるけど」

チノ「？」

ユラ「誰かのために頑張ってる子の力になってあげたいから」

チノ「……！」

ユラ「なんてねゝ格好良かった？」

チノ「………」

チノ「リゼさんとユラさんがずっと仲良しな理由、分かったような気がします」

ユラ「わたしはリゼみたいに良い子じゃないからね」

チノ「でも、ユラさんも同じくらい優しいですよ」

ユラ「そうかなゝありがとう」ムフー

バタバタ バタバタ

チノ「？」

ユラ「この足音はく来たねく」

ガチャツ

リゼ父「待たせたな」

チノ「リゼさんのお父さん……！！」

ユラ「ここに来てくれたってことは、取引成立く？」

リゼ父「ああ、借りは返さないとな」

ユラ「人手はく？」

リゼ父「12人だ、足りるか？」

ユラ「悪くないねく」

リゼ父「指示を頼む」

ユラ「チノちゃんは机で待機、次々運ばれてくるだろうから確認作業だけよろしくく」

ユラ「手がかりは表紙の黒いウサギ、あと絵本」

ユラ「本棚ごとに2人ずつに分かれて探そつかく」



使用人A「コクリ

メイド「ガサゴソ

使用人B「バサツ

リゼ父「あんまり大勢で長居しても迷惑だからな、早く探すぞ」

チノ「ユラさん……」

ユラ「みんなで探せばすぐに見つかるよ」

ユラ「大丈夫、わたしたちに任せて」

チノ「――！」

チノ「……はい／＼」ニコ

ここあ「ゆらちゃんおそいね……」

リゼ「そうだな」ナデナデ

リゼ（……………）チラッ

ピンポーン

ここあ「あっ！」

ユラ「お邪魔します」

ここあ「ゆらちゃん！」

ユラ「ここあちゃん、やっと会えたね」

ここあ「ゆらちゃん／＼」タタタ

——ギユッ

ユラ「遅くなってごめんね」ナデナデ

ユラ「今日は夜まで一緒に遊ぼう／＼はいこれお土産」スッ

ここあ「わあ……………！ありがとう／＼」

リゼ「やっと来たか」

ユラ「リゼく待たせたね」

リゼ「なにかあったのか？」

ユラ「ううん、個人的なこと」

リゼ「使用人や親父から聞いたぞ。すまなかつたな」

ユラ「知ってたんだく情報が早いね、さすがはリゼく」

リゼ「ここあじゃだけじゃなくみんなのことまで……その、ありがとう」

ユラ「いいのさくみんなのこと好きだからね」

ユラ「もちろんリゼのことも」ツンツ

リゼ「つつくな／＼」

ユラ「あと今夜はお風呂までお呼ばれすることになったからよろしくね」

ここあ「ゆらちゃんとおふろ？」

ユラ「そうだよくリゼと3人で入ろく」

ここあ「うん！／＼」ピヨン

リゼ「親父と内通してたのか……やれやれ」

ユラ「ついでだしリゼのお父さんも入れて4人で入る〜？」

リゼ「馬鹿を言うな!!／＼」

ユラ「ユラちゃん別にいいのに〜」

ユラ「あつ、なら使用人さんはどう〜？」

使用人「ひっ！」ビクッ

使用人「もう勘弁してくださいえ！」ダダッ

ユラ「逃げられちゃった〜」

リゼ「相変わらず苦手意識を持たれてるな」

ユラ「今朝の一件が致命的かも〜」

リゼ「また何かしたのか……」

ここあ「ゆらちゃん、リゼちゃん!はやく〜」

ユラ「すぐにいくよ〜」

ユラ「リゼとお風呂かく久々だね〜」

リゼ「ベタベタしてくるなよ／＼」

ユラ「ここあちゃんには〜？」

リゼ「ダメだっ！」クワッ

ユラ「ぶれないね〜」

end.